

学校通信 ひがしやま 第40号

発行日 令和7年10月31日(金曜日)
発行者 別府市立東山幼稚園
別府市立東山小学校
別府市立東山中学校
校(園)長 谷川 芳明

○別府市の教育を語る懇談会(10/28)

・別府市社会福祉会館で開催されました。別府市教育委員会、退職校長会、現職校長会で構成される別府市教育懇話会主催で、教育の現状や課題への協議を目的とするする会です。

当日は別府市教委事務局職員、退職校長、小中学校長、単P役員、学校運営協議会委員が参加。「玖珠町の挑戦～玖珠町立くす若草小中学校の取組を通じて」と題して小原猛校長の基調講演があり、その後、「学校に行ききづらさを感じている子どもたちへの支援体制のさらなる充実に向けて」をテーマにグループ別協議を実施しました。



開会あいさつで、寺岡教育長から①9月現在180名の児童生徒が不登校。中学校6校に設置した登校支援ルーム(学校にはこれるけど、教室に入りづらい子どもの居場所。県教委が令和3年度から推進。全市町村に設置)に登校支援員(会計年度任用職員)を配置。1学期89名が利用。

グループ別協議では、①別府市教委の取組は対処療法的。予防が大切。対話(子ども同士、先生と子ども等)が不可欠②小学校に登校支援員の配置を。保護者を有償ボランティアで③人は本来、異なる。子どもたちをひとくくりにしてはいけない。対話が大切。答えの出ない課題について、対話を続けることが重要等、意見や感想が出されました。

「学びの多様化学校」の立ち上げに関わった玖珠町教委 上田参事(文部科学省から出向)は「不登校の理由は、人それぞれ。一般化できない。不登校の原因を子どもに求める前に、今までの学校は本当に全ての子どもにとって通いやすい場所だったのかを問い合わせ直す必要がある」と設置準備段階で説明をされていたそうです。

★★

○県教委別府教育事務所の学校訪問について(10/28)

・今年度2回目の学校訪問です。県教委は年2回事務所が全市町村立学校を訪問し、授業視察、当該校の課題について意見交換します。



・本校は学校評価の分析にAIを活用。児童主体の東山っ子会議。放課後学習サポートでの保護者の取組の工夫。授業での「振り返り」の共有。板

倉所長からの、3年目(つまり今回が6回目)の本校訪問の個人的な感想は、私にだけ。設定された協議予定時間は超過しがち。各学校の好事例は、集約され、別府教育事務所管内(別府市、日出町、杵築市、国東市、姫島村)で各学校に共有されます。